



コメドールだより

YAGUITA DE PASTOR 編

【はじめに】

サンティアゴにはジャケ川という大きな川が通っています。橋を渡って進んでいくと丘の様な場所があります。そこは「Yaguita de pastor(ジャギータ・デ・パストール)」と呼ばれる地区で、橋の向こう側が見渡せる小高い丘にコメドールがあります。(最初は Yaguita の発音に慣れるのに苦労しました。)

ここは先生、子ども、運営方針がガラリと変わったコメドールでもあります。それでも、変わりつつある環境の中で元気にすすす子ども達があります。

巡回活動型のメリット

- ① 土地勘が身に着く。活動で色々な地域に行っているため、サンティアゴ市内の地理に詳しくなります。
- ② 色々な地域に友達ができる。活動を通して子ども達や保護者、地域の人達と親しくなれます。
- ③ 英語が上達する。北米等からのボランティアや、英語で話しかけてくれる人もいるため、英語が役立ちます。

隊員紹介

長江 茉莉子
(ながえ まりこ)

2016 年度 2 次隊

職種: 青少年活動

【時の流れ】

私が活動を始めた時は、3歳から9歳までの子ども達が通っており、教員養成校を卒業した先生が働いていました。



【写真①初期のコメドル】アットホームな学童クラブの様な印象です。

3～5歳の子どもが多かったのですが、年長の子ども達が作品の作り方を覚えると、年少の子ども達に作り方を教えたり、作品を作るお手伝いをしてくれたりしました。先生も子ども達のお姉さんの存在で、家庭的な雰囲気のあるコメドルでした。



【写真②作るの大好き】作る時はいつも真剣に取り組む子ども達

その後、学校のカリキュラムが変わり、就学児童はコメドルに通えなくなりました（授業が午前制に変更）。そして、2018年2月に先生の人事異動が決まり、コメドルの運営方針も「3～5歳の児童限定」の保育園の様な体制に変わりました。

【新コメドールのスタート】

新しいコメドールに行くと新メンバーの子ども達が沢山！ 保育園から異動してきた先生も、新しい子ども達の受け入れに大忙しです。

初めて見る日本人にポカーンとする子やストレートヘアを珍しがる子等、色んなリアクションがありました。

そして、肝心の活動内容は「好奇心を持つ事・指の発達を促す事」を目的にしました。



【写真③小麦粉粘土を作ろう】「食べ物じゃないよ、粘土だよ」がキャッチフレーズ

自宅でも簡単にできる小麦粉粘土は大好評♪パンと同じ材料なので（絵の具以外）最初は「粘土なのか食べ物なのか…」と子ども達の間で話題に。

最初は食紅を使って食べても安全な粘土にしようかと思いましたが、粘土をよく知らない子が多く、「粘土＝食べ物」という印象にならないよう、あえて絵の具を使いました。※比較的安全な絵の具を使用。

何でも口に入れる子が多いので、玩具や材料の誤食・誤飲防止のための教育も大切です。

【¿Dónde está Profe?】（先生はどこ?）

新体制になったコメドールに行った初日、子ども達に挨拶をしていると「Mariko!」と抱きついてくる女の子がいました。

その子は私が活動を始めた時からコメドールに通う子で、今ではここのコメドールのリーダー的存在です。

異動してきた先生と一緒に、年下の子ども達の手洗いや掃除等の手伝いもしています。とても頼もしい5歳児です。

図画工作教室の合間に、その子が私の所に来て「（前の）先生はどこ? 元気?」と聞いてきました。「今は保育園にいるよ。この前会ったら元気だったよ。」と伝えると「良かった…。私は会いに行けないから、今度先生にあったら私の事伝えてね。」と言ってきました。

今まで年少だった子が年長となり、リーダーとして過ごす。急激な環境の変化の中、一生懸命適応をして過ごす子ども達。子ども達の芯の強さと柔軟性を感じました。

そして、先生に伝える約束をした後、その子は続けて言いました。「ここはすごく変わったけど、Marikoは変わらず来てくれる。また来てね。」

図画工作を教えるだけでなく、子ども達の心のサポートもしていこう…と実感した出来事でした。



【写真④リーダー】図画工作教室の時は、リーダーの仕事はお休み。思いっきり遊んで楽しもう！